

新 アジアの風

県立大地域経済研究所報告

タイの政治は昨年5月のクーデター以来、軍政となっており、その行く先に不安がないと言えは、うそになってしまふ。しかし街の雰囲気は全く、そのようなことを感じさせない。首都バンコクの市内中央部には高級ショッピングモールが次々と建設されている。少し郊外には長期滞在者が中心顧客になると思われる、やはり高級なコンドミニアム

春日 尚雄教授

タイには日本から製造業などの進出が続き、自動車産業を中心に東南アジア諸国連合(ASEAN)域内で一大生産拠点となっていることはご存じだろう。一方、消費市場においてはタイの購買力が伸びること、高価な輸入品も販売されるようになってきている。この欄でも紹介したように、日本の食材などもタイの消費者にとっては大変魅力的なものとなり、現地生産品を含めると日本ブランドの消費財のシェア

止まらぬタイの日本ブーム

やサービスアパートメントが軒並み完成し、オープニングのイベントが行われている。市内と郊外とを結ぶ便利な公共交通機関となった高架鉄道(BTS)も開業から15年を経過して徐々に延伸し、今では東京のJRを思わせるラッシュアワーの混雑が朝晩には見られるようになった。

若者にイベント盛況



大勢の若者でにぎわったジャパン・エクスポ・タイランド2015—タイ・バンコク(筆者撮影)

は近年、大きく伸びている。タイにおける日本ブームを象徴するイベントがあったので紹介したい。2月にバンコクで行われたジャパン・エクスポ・タイランド2015で

ある。政治の混乱など諸般の事情で開催が1年以上遅れたが、一言で言えば、今のタイにおける日本ブームを体感するには十分な勢いがあつた。フランス・パリなどで開かれる展示会が日本文化の紹介が中心なのに対し、このジャパン・エクスポは、もっと実

利的でかつエンターテインメントもあり、大変集客力のあるものとなった。会場は大きく二つに分かれていた。タイ人の日本留学、日系企業就職を支援する会場では日本語学校、日本の大学、現地日系企業のブースが多数並んでおり、若いタイ人学生が相談のため、熱心に話を聞いていた。福井県からは福井工業大学、セレンなどのブースが出されていた。もう一つの会場では日本食、日本への旅行、日本のサブカルチャーなどの紹介と、現地ミュージシャンによるコンサートがあった。多くの来訪者が若いタイ人であり、日本に興味を持ち、イベントを楽しんでいる雰囲気が伝わってきた。タイあるいはASEANが親目的であるとの表現をよく見かけるが、実際のところ、タイ人にとって「日本」は生活の一部になりつつあると言